

企画展「一宮市萩原遺跡群」主な展示品

	<p>1 銅鐸 【一宮市指定文化財】 八王子遺跡（愛知県一宮市） 一宮市博物館蔵</p> <p>高さ 21.6 cmを測る。県内最古の銅鐸であり、銅鐸の身の部分は摩滅が著しいが、両端にわずかに流水文が残存している。上部の吊り手部分に紐で擦れた痕跡が残り、また付近で石製の舌（鳴らす道具）が発見されたことから、吊るして鳴らしていたことが分かる資料である。</p> <p>吊り手部分を下に逆さまの状態で見られていた全国的にも珍しい出土事例である。</p>
	<p>2 銅鐸 【重要文化財】 朝日遺跡（愛知県清須市・名古屋市西区） 本館蔵</p> <p>高さ 46.5 cmを測る。身の部分は4つの区画に分かれ、それぞれ異なる文様が描かれる。横倒しの状態で発見され、県内で初めて、発掘調査中に出土した例としても有名である。</p> <p>小型の「鳴らす銅鐸」から大型の「見る銅鐸」へ変化する中間の資料と考えられ、三河・遠江地域を中心に広がる三遠式銅鐸の祖型（プロトタイプ）であるとも言われている。</p>
	<p>3 小型壺・蓋 山中遺跡（愛知県一宮市） 一宮市博物館蔵</p> <p>全面が赤く塗られたパレススタイル土器である。壺の口縁部の端には波文が施され、内面の頸部まで赤彩が塗布されている。壺と蓋はそれぞれ2つの孔が開けられており、結わえて使うことを想定して作られたと考えられる。</p>
	<p>4 鳥形木製品 八王子遺跡（愛知県一宮市） 一宮市博物館蔵</p> <p>井泉と隣接する大溝から出土した鳥形の木製品。本資料には、人の顔の左半分が上下逆に線刻で描かれており、このことから、人の顔が描かれていた板を鳥形に再利用したことが分かる。ここに描かれた人の顔の表現は、弥生時代後期から古墳時代にかけて土器に描かれることが多く、本資料は木製品に描かれた唯一の例である。</p>

写真撮影：あいち朝日遺跡ミュージアム